NEWS 第1・3・5土曜日の休診と祝日（月曜日）の診療のお知らせ

2026年4月より、当院の診療日に関して以下の変更を行うことになりましたので、お知らせいたします。
第1・3・5土曜日は休診となります。
その代わりに、祝日（月曜日）は診療を行います。
なお、2026年度の祝日（月曜日）診療日は右記のとおりです。

2026年 7月20日（月）	海の日
2026年10月12日（月）	スポーツの日
2026年11月23日（月）	勤労感謝の日
2027年 1月11日（月）	成人の日
2027年 3月22日（月）	振替休日

病診連携勉強会のお知らせ

2026年2月21日（土）
時間：15:30～19:30(17:30～懇親会)　場所：KKRホテル名古屋

特別講演　熱田 直樹先生
愛知医科大学病院 神経内科教授
演題：早期からの認知症診療

医療機関様からの声にお答えします！

Q 手術が不要な方や、圧迫骨折で保存療法を希望される方も入院できますか？

A 保存療法のみでも入院は可能ですので、ご相談ください。

2026年4月より 病院名通称変更のお知らせ

旧通称：東海病院
change
新通称：KKR東海病院

※なお、正式名称は従来どおり「国家公務員共済組合連合会　東海病院」で変更はございません

～急性期から介護まで～ 地域医療の中核病院
KKR東海病院

〒464-8512　名古屋市千種区千代田橋1-1-1
TEL：052-711-6131（代表）
8:30～17:15（病院）　11:00～16:00（健診）
FAX：052-723-3648（地域医療連携センター）

東海病院 公式HP　東海病院 公式LINE

～急性期から介護まで～地域医療の中核病院

Tokai

winter 冬 2026

特集 消化器内科

当院では大腸カメラ、大腸癌手術、痔の手術、全て対応可能です

消化器内科

お気軽に
ご相談ください

近藤 真也
消化器内科部長

×

北村 雅一
内科部長
内視鏡センター長

平成19（2007）年８月に内視鏡センターを開設して18年が過ぎました。おかげさまで近隣医療機関からのお力添えもあり、ここ数年の年間件数はコンスタントに7000件台を維持しており、1日40件近くの内視鏡診療を行う、名古屋市内でも有数のセンターと自負しております。

力を入れているのは患者さんの立場に立った検査。大腸カメラでは苦痛を軽減するために鎮痛剤を使用。希望に応じて胃カメラでも鎮痛剤・鎮静剤使用が可能です。もし大腸カメラでポリープが見つかればその場で切除できますので、患者さんにとって二度手間にはなりません。

早期の食道がん、胃がん、大腸がんには内視鏡的粘膜下層剥離術を積極的に行っており、外科的手術が必要な場合には外科と密に連携し、円滑に検査・治療を進めています。小規模病院なので小回りが利くことは大きな特徴です。

診療実績

胃カメラ	大腸カメラ
5,723件	1,530件
ESD	**ポリペク**
15件（上部８件 大腸７件）	608件

当院の大腸カメラの特徴

- 鎮痛剤と鎮静剤を注射して眠って検査を行うセデーション方法
  ※希望者は１泊可
- 内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）

肛門外科

POINT 01
肛門疾患専門の診療
- 直腸脱
- 痔核
- 痔瘻
- 裂肛

POINT 02
痛みの少ない治療
患者様の負担を軽減するため、痛みの少ない治療法を積極的に採用しています

POINT 03
日帰り手術の治療
症状に応じて、日帰り手術・入院手術の両方に対応可能

POINT 04
家田病院との連携

睡眠時無呼吸と生活習慣病

市民公開講座

睡眠と健康の深い関わりを専門家が分かりやすく解説

篠邉 龍二郎 先生
愛知医科大学病院
睡眠科特任教授
睡眠医療センター部長

去る2025年11月8日に開催された
第３回東海病院健康まつりの市民公開講座では、
愛知医科大学病院睡眠科教授
篠邉龍二郎先生にご講演を賜りました。

閉塞型睡眠時無呼吸症候群 患者の身体上の特徴と臨床症状

（Burack,B.:Am.Heart j.107：543-548,1984 より改変）

無呼吸指数（AI）と死亡率

未治療 OSAS 246 例（平均 52.1 歳）

He j, Kryger M, et al : Chest 1988

睡眠時無呼吸症候群（ SAS : Sleep Apnea Syndrome ）は、睡眠中に10秒以上の無呼吸が1時間に5回以上起こる病気で、重症度は眠気と無呼吸の回数で3段階に分類されます。日本では成人の7人に1人が罹患していると言われており、男性は40～50歳代に多く、女性は閉経後に増加します。

原因は肥満、顎が小さいなどの骨格的要因, 鼻炎、加齢、生活習慣、ストレスなど様々で、いびきや日中の強い眠気、倦怠感、集中力低下などが主な症状です（図１）。

特に無呼吸が30回以上生じる重症例では、高血圧、肥満、2型糖尿病、慢性腎臓病、心疾患、脳血管障害のリスクが上昇し、死亡率も高まります（図２）。また日中の眠気は重大事故につながる危険もあります。

治療には減量のほか、睡眠中に気道へ空気を送り無呼吸を防ぐCPAP療法が有効で、生活習慣病の悪化も防ぎます。肥満や日中の強い眠気がある場合はSASの可能性があり、早期診断と治療が重要です。

東海健康管理センターからのお知らせ

令和８年１月～

睡眠時無呼吸症候群

スクリーニング検査提供開始

愛知医大睡眠医療センターから検査技師が赴任しました！！